



特別号

第13回

らくぶん 樂文コンテスト

各賞受賞作品発表!!



◎主催 NPO特定非営利活動法人
博多の風

◎特別協賛 NTT docomo

◎協力 博多祇園山笠振興会、
(株)毎日新聞社、RKB毎日放送(株)

◎選考委員 潤田喜代三氏(博多祇園山笠振興会会長)
岩松 城氏(毎日新聞社 西部本社 編集局長)
永守良孝氏(RKB毎日放送 代表取締役会長)
沢田幸二氏(KBC九州朝日放送 パーソナリティ)
大庭宗一 (NPO博多の風 理事長)

◎協賛 西部ガス(株)、西日本鉄道(株)

◎後援 福岡市、福岡市教育委員会、福岡商工会議所
(社)九州経済連合会、(株)岩田屋三越、九州電力(株)
九州旅客鉄道(株)、(株)九電工、コカ・コーラウエスト(株)
(株)西日本シティ銀行、NTT西日本福岡支店、(株)福岡銀行
[順不同]

第35号
平成25年11月発行

近年の活動

※設立からの詳細はホームページをご参照ください

<http://hakatanokaze.jp>

平成24年

- 4月 第28回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:松本卓士氏(RKB毎日放送報道部記者)
5月 第21回 はかたの町クリーン作戦 実施
6月 第11回 追山コース探訪 開催
第12回 樂文コンテスト 開催
10月 第22回 はかたの町クリーン作戦 (雨天中止)
11月 第29回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:岩松 城氏(毎日新聞西部本社編集局長)

平成25年

- 4月 第30回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:前田 敦氏(西南学院大学法学部准教授)
5月 第23回 はかたの町クリーン作戦 実施
6月 第12回 追山コース探訪 開催
第13回 樂文コンテスト 開催
10月 第24回 はかたの町クリーン作戦 実施
11月 第31回 NPO博多の風フォーラム 開催
講師:松本 龍氏(元環境大臣)

NPO特定非営利活動法人



〒812-0027
福岡市博多区下川端町8-16-302
FAX 092-263-7188

E-Mail info@hakatanokaze.jp
URL <http://hakatanokaze.jp>

NPO博多の風の歩み

- 設立
平成10年 9月
任意団体『博多の風』設立 代表:大庭宗一
- NPO登記
平成12年 6月
『NPO博多の風』として登記 理事長:大庭宗一

NPO博多の風事業概要

- 啓発事業
・博多の風フォーラム開催
・広報誌・HP発行
・毎日新聞世論フォーラム公聴
・作文コンクール(樂文コンテスト)開催

- 地域環境向上事業
・博多の町親交
(清掃活動クリーン作戦・冷泉小学校跡地提言・山笠文化継承)

- 活性化事業
・書籍出版
・博多祇園山笠の振興
・追山コース探訪開催

- 協力事業
・各市民団体との情報交換及び支援

題字:新井光守



症で倒れてしましました。のときは、とつてもこわがつたです。このまま死んじやうんじやないかとか、余計なことばつかり考えて、パニツクになりました。ひと倍家族の時間がしたいで楽しいつて感じるから、ひと倍心配で、こわくなる。なんだとそのとき思いました。これからまた、こんなことにはこんな気持ちになりたくなにから、これからは、お父さんをお母さんをひと倍孝行をして、ひと倍親孝行をして、お母さんをひと倍幸せにあげたいと思います。いつもあげたいと思います。いつも「ありがとうございます」と言つて、みようかなつて思いました。

死ぬまでサッカー

● 松崎中学校1年

井上 創太
イウエ ソウタ

これがいいと生きていけない。そう思えるものが僕にはある。それは、一つのボールをゴー!ルに入れた数で競う、

私が好きなことは、料理をすることです。初めて作つたものは、ホットケーキです。一から十まで才だけではありません。三才だけではあります。ホットケーキをひっくり返そ

うとしてフライパンが足に落ちました。やけどをしてしまいました。あまいも痛く、泣いていたけれど、母が作つてありました。それから次は、みぞるを作ろうと思いました。

でも母は少し反対しました。だから、私は父にたのみ、作らせてもらいました。少しぐれのを見て、やっぱりも

うと一緒に作つて、一人でも作れるようになりました。私はいつもマヨネーズ、ネギを入れたりし、工夫できるよになりました。

そして、カボチャチーズといふ新しいレシピも作りました。私はいまいちだつたけど、家では「おいしいよ。」とあります。母が留守にする日には、母が宿題が訪れるのは、そんな時

だつた。こんなことをバカといふが、母の「チョコレート依存症」のほうが異常だと思う。お母は愚痴つてしまつて、その母は決まって、ついにボーリ逃げてしまうようになる。おまけに宿題がおろそかにいなか上手くなれない「ミスをしたらどうしよう。」と考えてしまつて、ついにボーリ逃げてしまふと、仲間からの嘲笑い。そこには母もほとほと呆れてばかりである。

「そんなにキツいなら辞めればいいじゃん。」

「ミスをしたたらどうしよう。」

「そんなにキツくて辛いのに。それがいいと生きていけない。なぜなら、母は、僕がサッカー無しの人生を歩めるはずがないことを知つていいからである。

「そんなにキツくて辛いのに。それがいいと生きていけない。なぜなら、母は、僕がサッカー無しの人生を歩めるはずがないことを知つていいからである。